

Title	臨床死生学・老年行動学分野 活動報告
Author(s)	
Citation	生老病死の行動科学. 2017, 21, p. 61-63
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/60535
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

臨床死生学・老年行動学分野 活動報告

1. 研究会報告

本研究室では、月1回第1水曜日に中之島キャンパスにて研究会を開催している。
平成28年度は、下記の通り、7回研究会を開催した。

第41回 2016年4月20日

話題提供者 成木 迅（京都府立医科大学）

テーマ 高齢者の意思決定支援を考える—医療選択を中心に—

第42回 2016年5月11日

話題提供者 野村 豊子（日本福祉大学）

テーマ 時・人・地域をつなぐ回想法

第43回 2016年6月1日

話題提供者 植木 章三（大阪体育大学）

テーマ 元気は己のためならず—介護予防ボランティアのすすめ—

第44回 2016年7月6日

話題提供者 大橋 明（中部学院大学）

テーマ 『高齢者サロン』という地域活動と男性高齢者の参加

第45回 2016年10月5日

話題提供者 谷口 幸一（東海大学）

テーマ 老人心理学の昔と今:人、領域、社会的関心の変遷から今からを考える

第46回 2016年11月9日

話題提供者 大橋 靖史（淑徳大学）

テーマ ディスコースの心理学 —ことばのやりとりに目を向ける—

第47回 2016年12月7日

話題提供者 長田 久雄（桜美林大学大学院老年学研究科）

テーマ 高齢者になって考えること

2. 学位論文一覧

平成 28 年度は、下記の通り、学部生 1 名、博士前期課程大学院生 2 名が学位論文を提出した。

卒業論文

幼老複合施設における子どもとの交流が高齢者にもたらす意味 道端 奈津美

修士論文

高齢者の主観的幸福感に影響を与える要因の検討
— 百寿者に注目して— 蔡 羽淳

非親族との社会関係が高齢期の主観的幸福感に与える影響
— 「弱いつながり」に着目して— 後藤 扶美香

3. 業績一覧

以下は、本研究室の教員、特任研究員、および大学院生による、平成28年度の業績一覧である。いずれも第一著者の姓のアルファベット順に記載されており、下線部は本研究室の構成員であることを示す。

【著書】

権藤 恭之 (2016). 第3章 百寿者から学ぶ健康長寿とは 日本心理学会 (監修) 長田 久雄・

箱田 裕司 (編), 超高齢社会を生きる—老いに寄り添う心理学— 誠心書房.

権藤 恭之 (2017). 日本の読者へのメッセージ 富澤 公子・タカハシ マサミ (訳) 老年的超越—歳を重ねる幸福感の世界— 晃洋書房 iii iv.

Gondo, Y., Masui, Y., Kamide, K., Ikebe, K., Arai, Y. & Ishizaki, T. (2016). SONIC Study: A longitudinal cohort study of the older people as part of a centenarian study. Pachana, N.A. (ed.), *Encyclopedia of Geropsychology*. Singapore: Springer Science+Business Media, in press. DOI 10.1007/978-981-287-080-3_182-1

Ishioka, Y., & Gondo, Y. (2016). Cognition. Pachana, N.A. (ed.), *Encyclopedia of Geropsychology*. Singapore: Springer Science+Business Media, in press. DOI 10.1007/978-981-287-080-3_182-1

Inagaki, H., Arai, Y., Gondo, Y., & Hirose, N. (2016). Tokyo Centenarian Study and Japan Semi-supercentenarian Study. Pachana, N.A. (ed.), *Encyclopedia of Geropsychology*. Singapore: Springer Science+Business Media, in press. DOI 10.1007/978-981-287-080-3_182-1

川島 大輔・久保田 彩 (2016). ワーク0 こころの準備運動 他5稿 川島 大輔・近藤 恵 (編) はじめての死生心理学現代社会において、死とともに生きる (pp.6-9 他) 新曜社.

(ワーク1 もし、死がなかったら pp.26-28; ワーク2 尊厳のある死をめぐって pp.44-46; ワーク4 自殺予防クイズ pp.80-81; ワーク5 もし死後の世界があるとしたら—「あの世」のイメージ pp.101-102; ワーク7 自殺の危機対応場面について考える pp.137-139)

久保田 彩・川島 大輔 (2016). "ワーク3 グリーフマップを描こう 他5稿 川島 大輔・近藤 恵 (編) はじめての死生心理学現代社会において、死とともに生きる (pp.63-64 他) 新曜社.

(ワーク6 子どもに死を説明する pp.118-120; ワーク8 遺されたもの pp.155-156; ワーク9 喪失のスケッチ pp.172-173; ワーク10 エンディングノート pp.190-193; ワーク13 死に対する態度を測定する pp.244-246)

松井 智子 (2016). コラム「PTGと援助要請行動」宅 香菜子 (編) PTGの可能性と課題 (pp.184-185) 金子書房.

佐藤 眞一・権藤 恭之 (2016). よくわかる高齢者心理学 (pp.1-204) ミネルヴァ書房.

佐藤 眞一 (2016). 条件付け 他 11 項目 一般社団法人認知症ケア学会認知症ケア用語辞典編纂員会 (編) 認知症ケア用語辞典 ワールドプランニング.

佐藤 眞一. (2016). 老後生活心事典 (pp. 1-272) 台湾：晨星.

【学術論文】

Brodaty, H., Woolf, C., Andersen, S., Barzilai, N., Brayne, C., Cheung, K. S., Corrada, M. M., Crawford, J. D., Daly, C., Gondo, Y., Hagberg, B., Hirose, N., Holstege, H., Kawas, C., Kaye, J., Kochan, N. A., Lau, B. H., Lucca, U., Marcon, G., Martin, P., Poon, L. W., Richmond, R., Robine, J. M., Skoog, I., Slavin, M. J., Szewieczek, J., Tettamanti, M., Viña, J., Perls, T., & Sachdev, P. S. (2016). ICC-dementia (International Centenarian Consortium - dementia): An international consortium to determine the prevalence and incidence of dementia in centenarians across diverse ethn racial and sociocultural groups, *BMC Neurology*, 21, 16-52.

堀 麻佑子・沼田 恵太郎・中島 定彦・嶋崎 恒雄 (2016). 選択の自由と課題の慣れは曖昧性への選好を調整する 基礎心理学研究, 34 (2), 246-252.

小園 麻里菜・権藤 恭之・小川 まどか・石岡 良子・増井 幸恵・中川 威・田淵 恵・立平 起子・池邊 一典・神出 計・新井 康通・石崎 達郎・高橋 龍太郎 (2016). 余暇活動と認知機能の関連—地域在住高齢者を対象として 老年社会科学, 38 (1), 32-44.

久保田 彩・佐藤 眞一(2016). 高齢者施設介護職員の看取りケア効力感の測定とその関連要因 心理学研究, 87 (5), 485-494.

Kuwamura, K., Nishio, S., & Sato, S. (2016). Can we talk through a robot as if face-to-face? Long-term fieldwork using teleoperated robot for seniors with Alzheimer's disease. *Frontiers in Psychology*, 7, 42382.

沼田 恵太郎 (2016). 高齢者の条件づけと学習—研究展望— 生老病死の行動科学, 20, 25-35.

佐藤 眞一 (2016). ソーシャル・キャピタル—可視化される「絆」— 福祉介護テクノプラズ, 9 (6), 42374.

佐藤 眞一 (2016). 高齢者心理学の歴史と展開 *Aging & Health*, 25 (3), 12-15.

佐藤 眞一 (2016). ハッピー・エイジングに向けた高齢期の心のあり方 *FJC*, 42, 8-9.

坂井 麻里子・鈴木 則夫・西川 隆 (2016). 右前頭葉内側面の発話・書字への関与 —過性の発話開始困難と持続的な漢字の純粹失書を呈した症例からの考察— 高次脳機能研究, 36 (2), 236-243.

Takeshita, H., Ikebe, K., Gondo, Y., Inagaki, H., Masui, Y., Inomata, C., Mihara, Y., Uota, M., Matsuda, K., Kamide, K., Takahashi, R., Arai, Y., & Maeda, Y. (2016). Association of occlusal force with cognition in independent older Japanese people, *JDR Clinical & Translational Research*, 1 (1), 69-76.

豊島 彩・田渕 恵・佐藤 眞一 (2016). 若者における高齢者虐待の認識度と高齢者への態度との関連 ―虐待の背景に着目して― 老年社会科学, 38 (3), 308-318.

Toyoshima, A., & Sato, S. (2017). Examination of the relationship between preference for solitude and emotional well-being after controlling for the effect of loneliness, *Osaka Human Sciences*, 3, in press.

【その他】

春日丘荘・春日丘荘『彩の家』看取りプログラム検討委員会 (佐藤 眞一・久保田 彩他) (2016). 平成 26・27 年度春日丘荘・春日丘荘『彩の家』看取りケアプロジェクト 中間報告書 ―看取りケアの評価に関する調査結果― 社会福祉法人大阪府事業団, 1-76.

佐藤 眞一 (2016). 認知症ケアにおけるアンドロイドの認知・行動学的意義と中高年ボランティアによるコミュニケーションの試み② (公財) 三菱財団「2015 三菱財団研究・事業報告書」, 99-100.

中里 和弘・島田 千穂・舞鶴 史恵・水雲 京・佐藤 眞一 (2016). 認訪問看護事業所における遺族支援の実態調査報告書 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所, 1-46.